

ボールの特性レポート

BALL REPORT



ボール名	エンカウンター	投球者	徳江 和則	センター	平和島スターボウル
RG	2.500	△RG	0.048	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール	

テストボール：エンカウンター

フレアーの幅 インチ

表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ

PAPからピンとの距離 インチ

番

研磨剤

比較対照ボール：ワールド・ビーター2

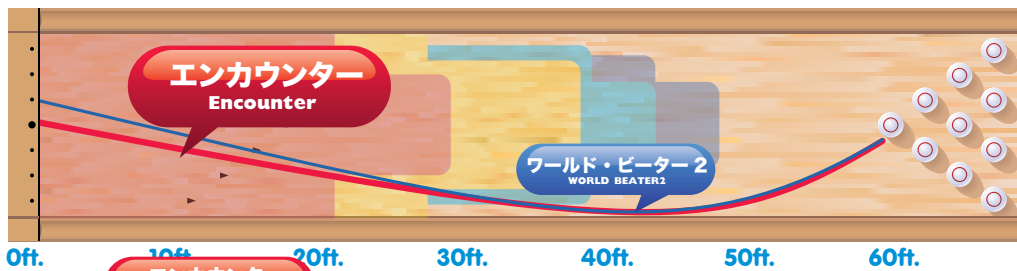
フレアーの幅 インチ

表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ

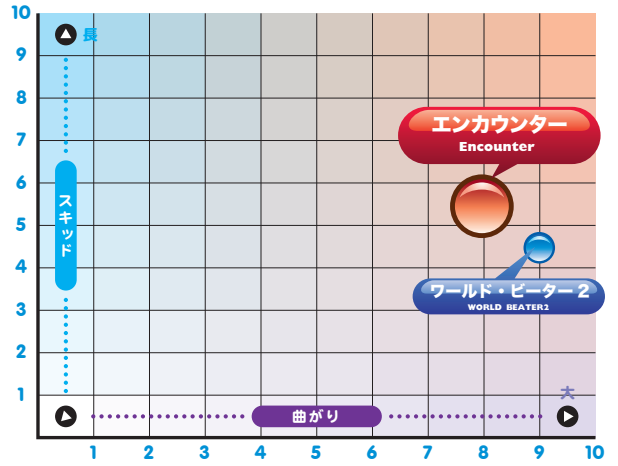
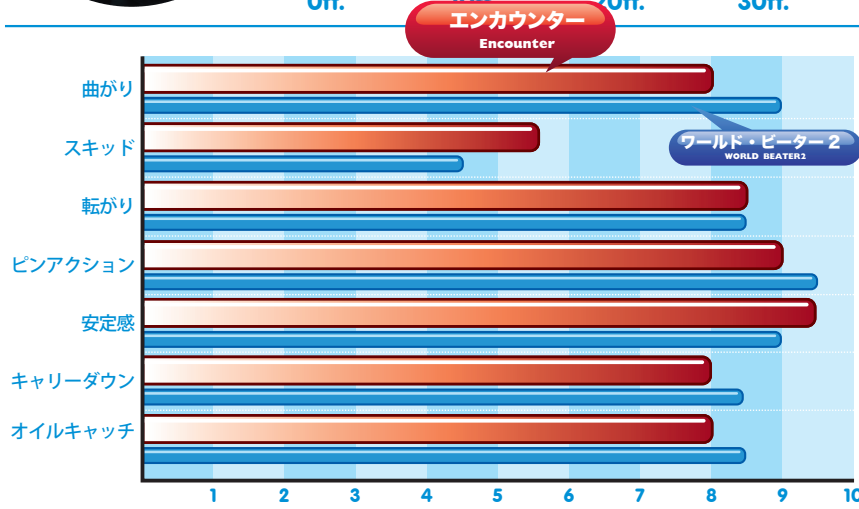
PAPからピンとの距離 インチ

番

研磨剤



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- バフ



ボールの評価

去る8月22日～30日、PBAのトッププロ2名(クリス・バーンズ、マイケル・フェーガン)が来日、コロンビア300、トラックのNEWボールの発表と試投会を目的に全国縦断ダイナミックツアー2011が行われました。そのダイナミックツアーでクリス・バーンズがPBAトーナメントでも武器となるボールと称したEncounterをご紹介します。

基本的な性能は光沢がある見た目でもオイルの捉え方はキャッチ系カバーストックであること。

コロンビア社の発表の通りHI-パフォーマンスの領域に分類でき、特徴的なのは放たれた瞬間から感じる転がりの良さは、ミッドエリアでの安定したフック移行に繋がり、その軌跡を保ったままピンヒットまで駆け抜けるイメージを持てることです。HI-パフォーマンス系に属していても、走りすぎずキャッチし過ぎないスキッドとオイルの捉え方は絶妙で、幅広いコンディションに対応可能だということを感じていただけるはずです。

私がこのEncounterに一番感じたのが「リアクションの安定」であり、ミッドエリアでのボールの曲り始めがスムーズに読み取れるところでしょう。ラインを狭めても外に向けても、曲り始めからポケットまでの軌道が読みやすいためラインのアジャストが難しく感じないこと。ダラダラとタれるイメージのリアクションとは反した、ややシャープ系に動くボールの属性でのこの扱いやすさは完成度が高い仕上がりであることは間違いなく、リーグボウラーからトーナメントプロまで多くの方々に「オールラウンドの武器」として使用していただける自信作です。

投球するラインを決めるにしてもボール選択にしても、与えられたコンディションを把握することが必要不可欠。オールラウンドに対応できるからこそ、選択の迷いを消すためにこのボールが必要なのだと私は思います。

特記事項

毎年この8月の時期に発売されるカタログボールはコロンビア社にとって社運を左右するボール。ダイナミックツアーしかり、Bool EXPOしかり。全面的に売り出す意図が性能に隠されています。